

## ESG/統合報告 Keyword vol.07

ESG、統合報告。新聞やメディアでよく目にするものの、専門的でよくわからない、という方も多いかもしれません。この分野に精通しているESG/統合報告研究室の研究員が、“いまさら聞きにくい” 初歩的なキーワードの説明とともにポイントを分かりやすく解説します。

### 1 人権デューデリジェンス

2011年、国連人権理事会が採択した「ビジネスと人権に関する指導原則」において、企業の人権尊重責任を具体化するための手法として、人権デューデリジェンスが盛り込まれた。人権の尊重はあらゆる事業活動の土台であると認識されており、人権に関する方針の策定、企業活動が人権に及ぼす影響などの側面からの外部機関による審査を実施し評価や開示を行う。



#### ココがポイント

ESGの気運が高まる中、「人権」は極めて重要な論点の一つとなってきています。日本では「人権」というと馴染みが薄いように感じる場合も少なくありません。ESG投資方針を掲げる機関投資家の増加に伴い、人権問題は事業会社にとって、従来型のレピュテーションリスクだけでなく、ネガティブスクリーニングによって金融機関からの投融資制限にかかるなどの財務リスクにもなっています。当然働き方改革も「労働者の人権」に関するテーマである等、現代の我々にも依然、関わりの深いテーマだと言えます。人権デューデリジェンスにより組織が及ぼすマイナスの影響を回避・緩和することを目的として、事前に認識・防止・対処するために取引先などを精査するプロセスをいいます。

### 2 バックキャストイング

不可能と思われるような事柄に対して未来のある時点で目標を設定しておき、未来から振り返って現在すべきことを考える方法。地球温暖化対策のように、現状の継続では破局的な将来が予測されるときなどに用いられる。対して現状から積み上げることで目標の達成を目指す方法をフォアキャストイングという。



#### ココがポイント

SDGsのような全世界的な目標を達成するには、未来への豊かな想像力と自らの意思や価値観が最も重要になります。そのためには従来の延長線上での継続した活動では達成は難しく、高い目標に向け根本からの大きな変更を戦略的に取り組む必要があります。望ましい未来像のビジョンを描き、どのような姿でいたいのか「現在」における課題と可能性を洗い出しアクションを起こすことが必要です。その意味からフォアキャストイングは現状を考えた改善的なアプローチ、バックキャストイングは創造的破壊を生み出すアプローチともいえます。

## 3 ニューノーマル

ニューノーマルはITバブル後の2003年頃に米国で生まれた「新しい常態、常識」を表す。これまでの普通の状態が普通でなくなり、新しい常識が定着する状態のことを指す。今回の新型コロナウイルス感染の影響は地球規模となり、日本だけではなく世界中でニューノーマルへの転換が迫られている。



### ココがポイント

新型コロナウイルス感染症問題は、世界中の経済や社会に大きな打撃を及ぼしました。今後は、このコロナウイルスと共存をしていく、いわゆるウィズコロナの期間が続くと思われます。今までの常識が今後も常識として継続することが難しくなり、新しいものを受け入れて、うまく活動していくことが重要になります。コロナ禍では、外出時は常にマスクをする。街中でも人とは適度な間隔を空けるソーシャルディスタンスなどがニューノーマルになりつつあります。会社員は毎日会社に行き仕事をするというのが当たり前でしたが、コロナ禍の緊急事態宣言により在宅勤務が推奨され結果的にオフィスに出勤せずに業務を遂行するリモートワークの可能性も確認することができました。今後ビジネスの在り方や働き方は大きな変革が求められ新たな機会となり得ると考えられます。

## 4 クライシスマネジメント

クライシスマネジメント（危機管理）とは、企業活動の継続や企業自体の存亡を左右する危機的状況が起きた場合の対処方法のことを指す。頻発する大規模自然災害、国際情勢の緊迫化による非人道的テロの続発。これらに共通するキーワードが「想定外」だ。こうした「想定外の事象」の頻発により、クライシスマネジメントが注目されている。



### ココがポイント

企業の危機、リスクは一定ではありません。従来から大規模自然災害への備えについてはその必要性が声高に言われています。企業のリスク対応という点では、従来から言われている「リスクマネジメント」があり、それに基づき、BCP（事業継続計画）を策定している企業も少なくありません。リスクマネジメントが「想定される危機をどう予防するか」である一方、クライシスマネジメントは「危機が起きたときにどうするか」ということで、両者は、危機に対する発想が根本的に異なっています。クライシスマネジメントでは「危機は必ず起こる」もの、「その時に自社を含めて世の中がどうなっているかわからない」ことを前提とし、被害を最小限に抑える、二次的被害を回避する、速やかに復旧を図ることが主眼になります。クライシスマネジメントの質は、平時から行うリスクマネジメントの質に従属するといえます。